

暗唱聖句: 知恵と知識の宝はすべて、キリストの内に隠れています。(コロサイ2:3)

コロサイはアジア州フリギア地方にある町で、コロサイの信徒への手紙は、パウロが獄中から出した「獄中書簡」の一つです。パウロはコロサイの教会を訪ねたいと願っていましたが、捕えられてしまったので、手紙を書いたのです。なぜ訪ねたかったのかというと、その頃、コロサイの教会には間違った教えが広まっており、人々は重大な過ちに陥ろうとしているとエパfrasが知らせに来たからです。

パウロは、自分の務めは、「神の御言葉をあなたがたに余すところなく伝える」ことだと語り、そのためならば、どのような苦しみをも厭わないどころか、苦しむことを喜びとすると書いています。実際に、回心後のパウロは、自分の身の危険も顧みず、イエス・キリストを伝えることに一生を捧げました。

しかし、「キリストの苦しみの欠けたところを身をもって満たしています」とはどういうことでしょうか？ 十字架にかけられたイエスさまの苦しみがまだ足りなかったというのでしょうか？ いいえ、そうではありません。イエスさまは十字架にかけられ、3日後に神さまによって復活され、救いは完成しました。しかし、そのことを伝えるという大切な働きが残されていました。復活のイエスさまに出会った人たちが、口を閉ざして何も言わなかったら、そこで終わってしまいます。私たちの誰一人として、神さまを知ることができないのです。神さまの御業を伝える働きが教会に託されました。

そして、それは、パウロの時代だけではありません。現代においては、私たちに託されているのです。しかし、イエス・キリストは、「あとは頼んだ」と任せきりになさったわけではありません。イエスさまは今も生きておられ、伝道する一人ひとりに寄り添い、心を痛み、祈り、励ましてくださっています。パウロがイエスさまと共に働くことに喜びを感じたように、私たちもイエスさまを伝える労苦をともに担ってまいりましょう。

当時、コロサイの教会に広まっていた間違った教えとは、グノーシス主義的密儀宗教であったと思われます。秘密の儀式や呪文によって「秘められた計画」が徐々に開示されると考えられていました。そして、その時期は個人個人で違うとも考えられていました。しかし、パウロは、「その秘められた計画はイエス・キリストだ」と語ります。どこの国の人だから開示される、何をしたから開示される、というのではなく、「わたしたちの内」「教会の交わりの中」に存在し、今や明らかにされたのです。イエス・キリストを信じ、イエス・キリストに従い、イエス・キリストを伝える…これ以上でもこれ以下でもありません。自分にとって都合の悪いことは省いたり、逆に、自分に都合のいいように、勝手に付け加えたりしてはいけません。

パウロは捕えられてしまったので、コロサイに行くことはできませんでした。つまり、コロサイの教会の人々と会ったことはなかったのです。パウロは、会ったこともない人々のために、心を痛み、祈り、何とか神の御言葉を正しく知ってほしいという強い思いをもって手紙を書きました。「知恵と知識の宝はすべて、キリストの内に隠れている」とパウロは語ります。神さまの教えを、人間の知恵や知識を用いて勝手な解釈をするのではなく、イエス・キリストの内にある知恵や知識によって理解するのです。

コロサイの教会の人々と同じ過ちをおかす可能性は、現代の私たちにも十分あります。様々な情報が溢れています。すぐに理解でき、すぐに成果の現れるものに飛びついてしまうこともあるでしょう。不安を煽るような情報に翻弄され、神さまを信じられなくなることもあるでしょう。しかし、この常盤台教会の中にも栄光の希望であるイエス・キリストがおられ、私たちのために働いておられることに感謝して、御言葉のみに従ってまいりましょう。そして、私たちのために祈ってくださっている世界中の教会の兄弟姉妹に感謝しつつ、私たちも祈りを必要としている世界中の教会のために祈りましょう。

現代社会は、世界中が、インターネットでつながっています。離れたところにいる人々とも、すぐに連絡が取れます。しかし、そのような物理的なつながりではなく、キリストの愛によって、キリストを信じる信仰によって、つながっていること、それが一番大きな喜びです。

●分かち合い

- ・パウロはイエスさまを伝えることに伴う苦しみを喜んでいました。どのような時に伝道の喜びを感じますか？分かち合ってみましょう。
- ・会ったことのない人や遠く離れた人のことを祈った時に、霊による繋がりを感じたことはありますか？



ショートメッセージは、教会ホームページから動画でも視聴できます。

左のQRコードを読み込むか、スマホ・PCからご覧の方は[こちら](#)をクリックしてください。

公開：6月9日（木）～